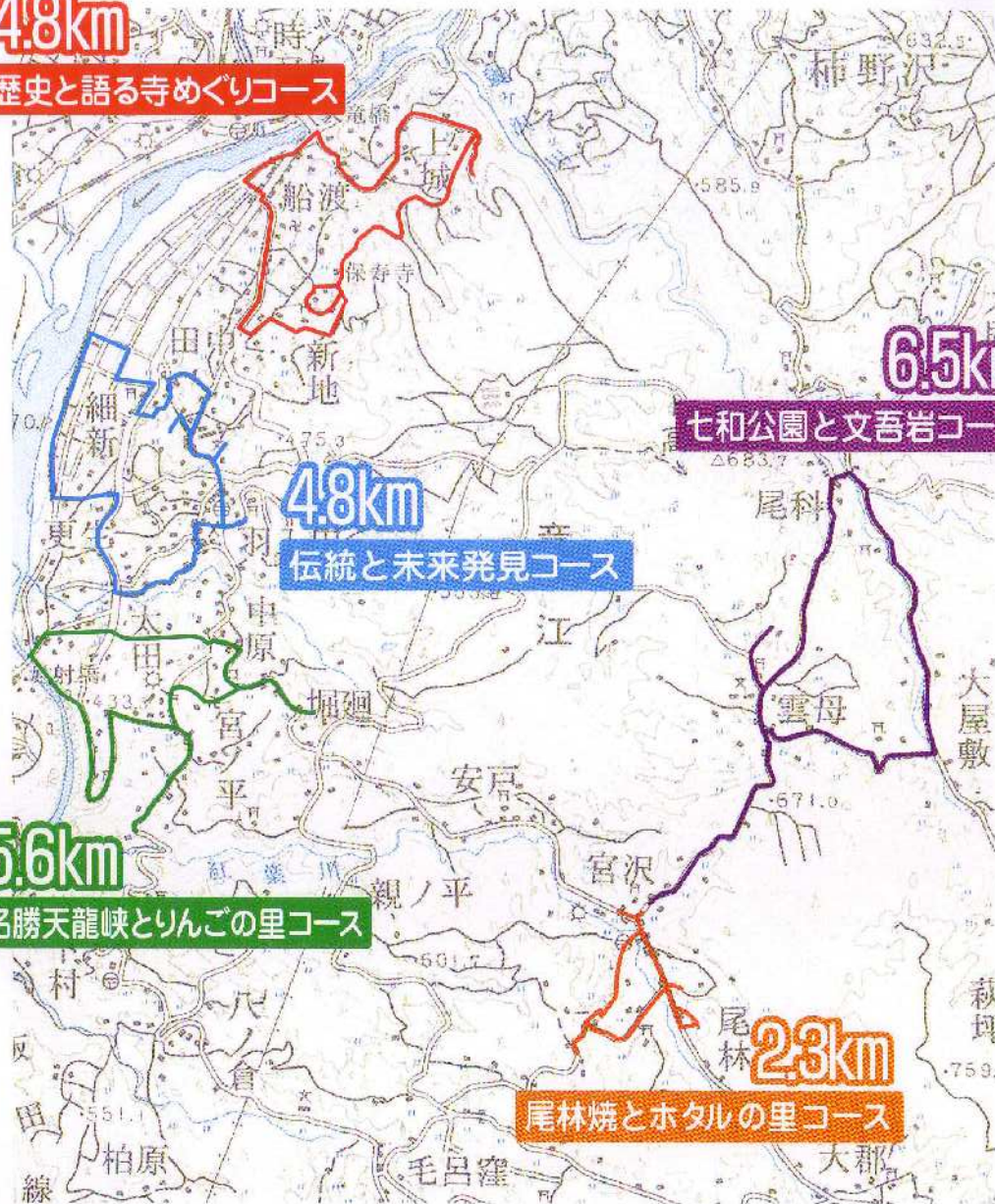


4.8km

歴史と語る寺めぐりコース



6.5km

セ和公園と文吾岩コース

4.8km

伝統と未来発見コース

5.6km

名勝天龍峡とりんごの里コース

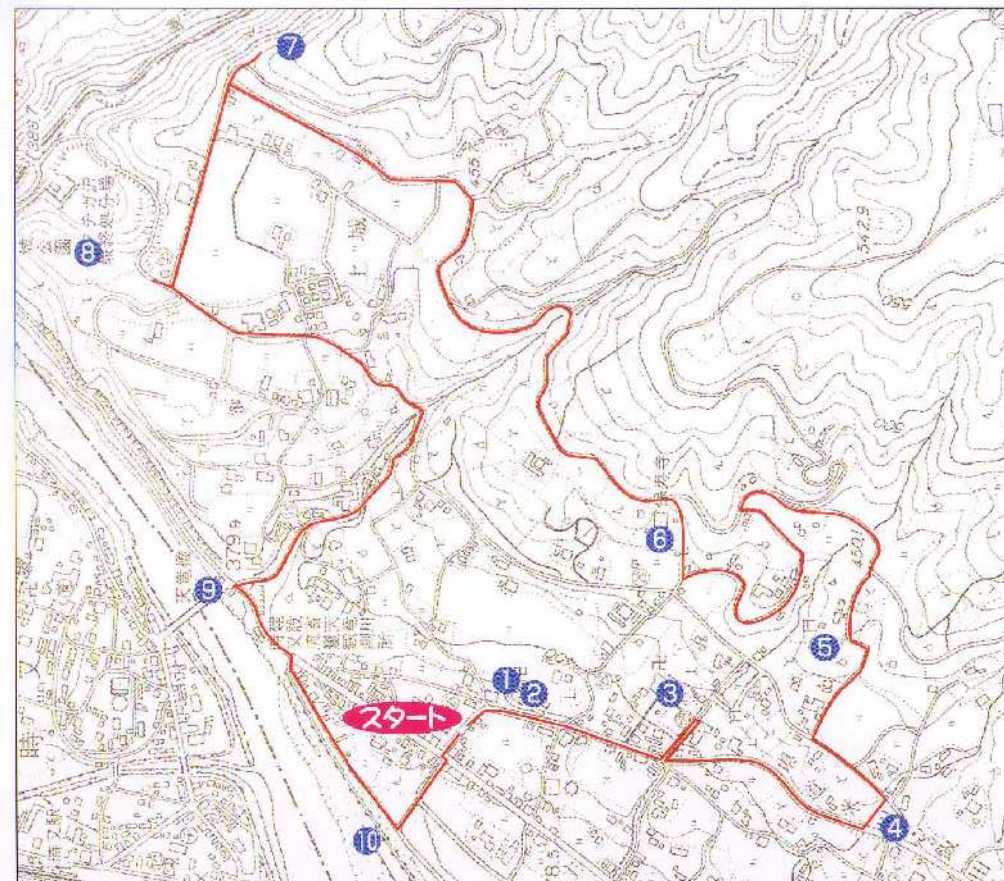
2.3km

尾林焼とホテルの里コース

準備
しましょう

- 帽子をかぶりましょう。
- 服装は歩きやすく、ゆったりしたものを。
- 水筒、食べもの、雨具、救急品、ハンカチ、ティッシュを。
- はき慣れた靴で、さあ出発!!

歴史と語る寺めぐりコース



● 総時間数 約80分 ● 総距離数 約4.8キロ

スタート

1 区公民館

1 東照寺
2 紙屋の碑

3 定継寺

4 二子陣屋跡

5 春日神社

6 保寿寺

7 大井入口

8 兎城公園

9 天龍橋

10 天龍峡さくら街道

1 区公民館

100m

250m

400m

300m

750m

1200m

400m

850m

400m

150m

1 東照寺



陽徳山東照寺。京都の臨済宗妙心寺派の禅寺。

室町時代の永享12年(1440)の開基。本尊は薬師如来である。

この時代の寺は領主が作ったものが多く、このお寺も領主井上氏との関わりが伝えられているが、創建には地区の百姓・大工・屋根屋・建具屋などが力を出し合って作ったとも言われており、そうだとすれば大変珍しい。

寺域に紙問屋騒動を記念する「南無阿弥陀仏」と「至誠殉難之碑」がある。「苔寺の薬師たずねて東照寺」

2 南無阿弥陀仏の碑(紙屋の碑)



江戸時代後期の文化6年(1809)和紙製造に対する問屋からの口銭(今の税金の一種)を安くしてほしいと立ち上がった騒動を記念して建てられた碑である。

この騒動に加わった人たちは裁判にかけられ、代表9名が江戸で亡くなった。

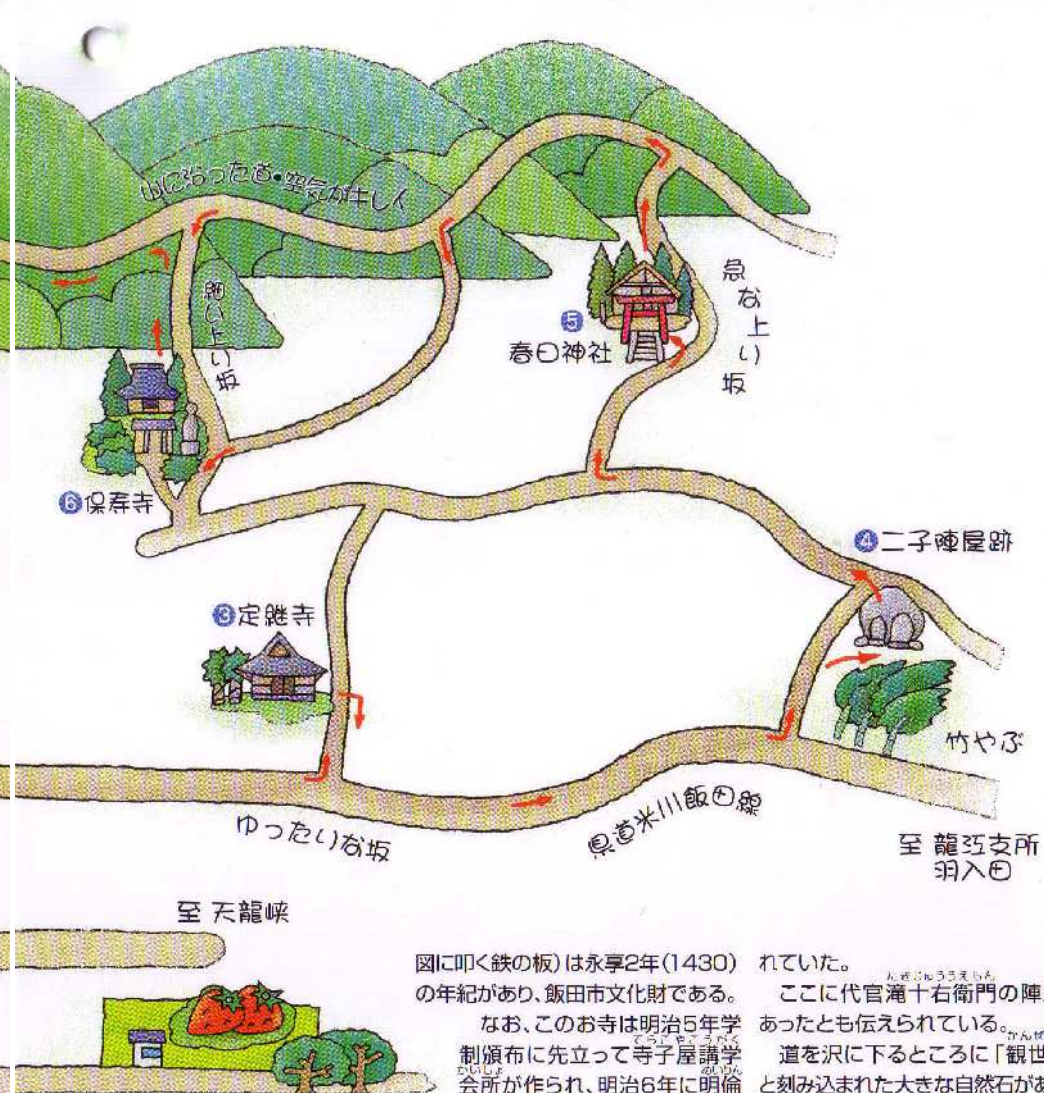
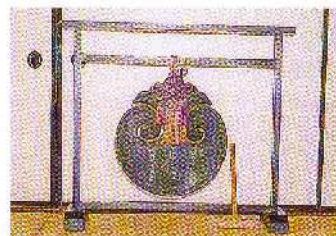
このことがあった5年後に犠牲になった9名の名前を刻み、冥福を祈って「南無阿弥陀仏」の碑が建てられ



た。現在、山門右手の丘の上に移されている。

なお、昭和19年には「至誠殉難者之碑」も造られ、山門左手前にある。

「なむあみだ東照寺の丘に紙屋の碑」



図に叩く鉄の板)は永享2年(1430)の年紀があり、飯田市文化財である。なお、このお寺は明治5年学制頒布に先立って寺子屋講学会所が作られ、明治6年に明倫小校と名付けられた。現在の小学校の前身の一つである。

「雲板が歴史を奏する定継寺」

ここに代官滝十右衛門の陣屋があったとも伝えられている。道を沢に下るところに「観世音」と刻み込まれた大きな自然石がある。

「二子には代官様の陣屋跡」

3 定継寺

東陽山定継寺。兎城に居を構えていた桃井定継の菩提寺として建てられたので、定継の名前をそのまま寺名としている。開山は南北朝期とも言われ古い。現在は京都の臨済宗妙心寺派の禅寺である。

4 二子陣屋跡

ふたこの敷で旧県道が上城への道と船渡への道に分かれる所に札所があったと記録に残っている。札所とは幕府や藩からの通知を住民に知らせるため、掲示板を立てた場所で、人が多く通る所に設けら



5 春日神社



古い記録によると兎城に居を構えていた桃井氏の氏神であった。

昭和19年に村社に昇格し、1区の氏神となった。

祭神は建御賀豆知命はじめ4神である。

境内に明治27年に建てられた滝氏の顕徳碑がある。また、かつて農家の副業として盛んであった紙漉き（和紙製造）が、機械漉き和紙に押されて、その歴史を閉じるようになったことを記念した「和紙の里」の碑が建てられている。

「春日社に大井の恩人滝氏の碑」

「春日社に石碑大きく和紙の里」

6 保寿寺



蒼龍山保寿寺。京都の臨済宗妙心寺派の禅寺。平安時代末、この地に住みついた今田氏が建てた観音堂を永正の頃（室町時代）竹隠禅師が山を開いて寺とした。

山門下にある黒門はその頃のままの建物で、古く貴重である。

また、本堂下にある大松は推定樹齢600年といわれる古木で、一名「南山松」と呼ばれている。

本堂の屋根に菊紋が付いており、この寺の格式の高さを物語っている。

山門をくぐった斜面一帯にしゃくなげがあり、みごとな花を開くので一名「しゃくなげ寺」として知られている。

「しゃくなげの花びらが呼ぶ保寿寺」

7 いたちが沢井・大井



水の便が悪かった一区地域では、いたちが沢から水を引くことを考え、時の代官滝十右衛門に頼んだ。この願いを滝氏は快く聞き届け、三州（愛知県）から石工を雇って工事に当たらせ、水を引くことに成功した。

この工事は今も語り伝えられている難工事であった。

昭和になって、水量を増やすためにトンネルを掘ることを計画した。

この工事を請け負ったのが朝本仙吉らで、献身的に工事に当たり、みごと完成させた。

大井の水は一本木地区まで達し田畑を潤している。

「いたちが沢大井のみなもと村ざかい」

9 天竜橋



龍江の船渡と時又を結ぶ天竜橋は、明治10年に土橋が架けられたが、夏の増水によって流失し、度々補修がくりかえされていた。

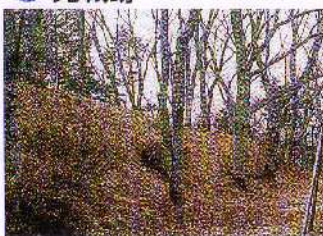
その後道路が整備され、人馬の往来も多くなったので、明治30年に木製橋が完成した。この橋は有銭橋で、初代天竜橋である。

明治40年には2代天竜橋が竣工、昭和に入って10年には鉄骨組のタイドアーチ式のモダンな永久橋が完成した。これが現在の第3代天竜橋である。

この橋も交通量の増加と老朽とから近々架け替えられる予定である。

「天竜橋くらし支えて一世紀」

8 兎城跡



知久氏の神峰城の出城として15世紀後半頃築かれた桃井氏の居城であったが、武田氏によって滅ぼされ、以降再興されることはなかった。

主部と曲輪・堀・土塁を有する在地領主の城で、現在も当時の堀の跡や土塁が残っている。

この城跡には「外堀跡」をはじめ、いくつもの碑石が建てられている。

「天竜の青嵐に立つ兎城跡」

「苔むした土塁の厚み兎城跡」

10 天龍峡さくら街道

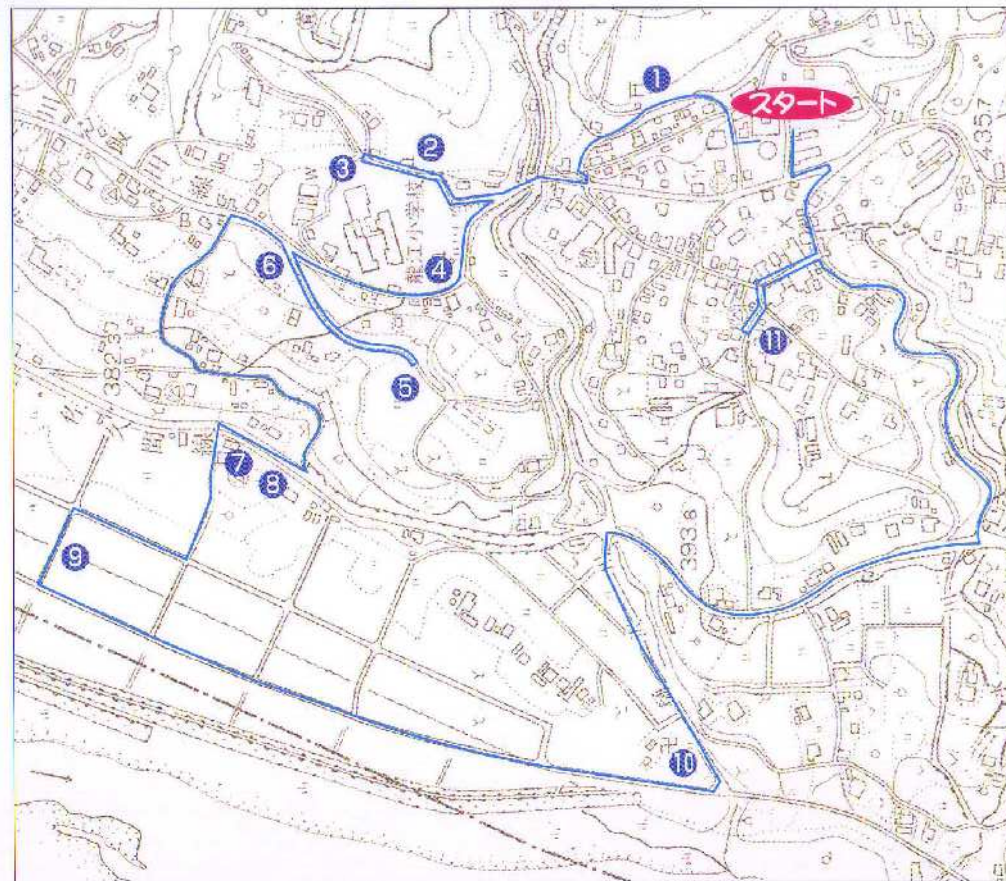


平成9年に完成した「今田平」の農道道路に面した植樹帯に幾度かの協議の末、桜の木を植えた。

船渡地籍から2区と3区境の樋ヶ沢出口までの2km余りに、関山、永源寺桜など10品種の桜を、変化をつけて植え「天龍峡さくら街道」と名づけた。

この街道の桜は桜愛好会やボランティアの方々によって管理されており、飯田市の桜の名所となる日を楽しみにしている。

伝統と未来発見コース



●総時間数 約80分 ●総距離数 約4.8キロ



1 子の神神社



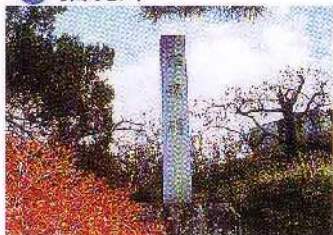
北方の守りを司る神であったが、大山祇神も祀られており、五穀豊穡、収穫感謝、家内安全、邪気退散などを祈る神社である。

もともとは、根の国（人間に害を及ぼす邪悪なものが住むところ）に発想のものがあるが、明治6年に筑摩県に出した届書から「子の神」となると村史に記されている。

現在羽入田地区全域で10月下旬にお祭りを続けている。

「子の神は羽入田平のご守護神」

2 招魂碑

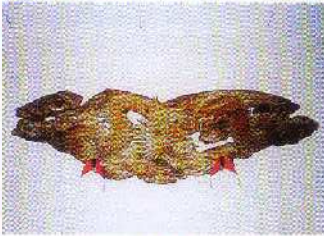


戦争のため尊い命をなくされた龍江地区の方々の冥福を祈るため昭和30年この碑が小学校校庭東側の高台に、関係者の奉仕作業によって建立された。

碑には日清・日露・太平洋の各戦争の殉国の犠牲者251名の氏名が刻まれており、毎年慰霊祭も続けられている。

「校庭の子らを見守る招魂碑」

3 龍江小学校（龍の彫刻）



明治5年の学制頒布に基づいて明治20年（1887）に完成したのが初代の校舎である。玄関には木曾の名工坂田亀吉の彫った龍の彫刻のついた、当時郡下で一番モダンな校舎であった。

この彫刻は今も小学校の玄関に飾ってある。

その後、児童数の増加に伴って、大正時代と昭和15年に新校舎が増改築され、昭和56年に現在の鉄筋コンクリート校舎が完成した。第3代目の校舎である。

「祖父も父もばくも学んだ龍江小」

4 大ひのき



小学校校庭の西方は、かつて龍江村役場があったところで、祠や民間信仰の石碑、小木曾秀十墳徳碑はじめいくつもの石碑がある。

大ひのきは推定樹齢300年といわれ、飯田市内では最大の古木の一つとも言われている。

この地区を「一本木」と言うのも、この木に関係があるのかも知れない。

「大ひのき学校みつめて幾星霜」

5 ハンバ古墳



龍江地区には計10基の古墳が調査されているが、これもその一つである。

小学校西北西100mの県道飯田・米川線下の台地にある円墳である。

明治12・3年頃発掘調査されたと村史に記されている。

今も高さ1.5mの墳丘を残してお

り、天井石と考えられる大石などがあり、横穴石室が存在していたことがうかがわれる。



6 毘沙門堂



どのような由来でここにあるのか、わかっていないが、このお堂には北方の世界を守護し、財宝を守ることをはじめ、全ての願いを聞き届けるという毘沙門天が祀られている。

一本木地区では干ばつの夏、地区民総出で雨乞いのお祈りをしてきた。毘沙門天が踏みつけている天邪鬼を川で洗って雨乞いをするお祈りである。

「一本木の毘沙門天が雨招く」

7 大宮八幡宮



祭神は八幡社にふさわしく菅原別命・熊野加牟呂命・建御名方命の三神である。天文5年(1536)に今田の守護今田太郎藤原頼茂が神々を迎えて祭ったものと伝えられている。

江戸時代中期の宝永の頃から、境内で操人形が奉納されるようになった。現在の今田人形浄瑠璃の始まりである。

昭和19年、春日神社が村社に昇格し、1区の氏神になるまで1区と2区の氏神であった。

「八幡宮祭りの庭でこんぼう」

8 人形の館—今田人形

宝永元年(1704)に「八幡宮祭典賑ワイの為」初めて奉納された今田人形芝居は、第二次大戦時も、連綿と引き継がれ現在に至っている。



昭和50年に文化庁から「無形民俗文化財」に選択され、平成2年には「飯田市無形文化財」に指定された。

平成6年、現在の今田人形の館が完成し舞台が整った。

現在、今田人形座の座員によって、八幡宮の礼祭をはじめ、全国人形劇サミット、人形劇フェスタや各地の行事に招かれて演じられ、継承・発展してきている。

「伝統が館にはえる今田人形」

9 今田平



日本三大桑園の一つで、名実ともに養蚕業を支えて来た龍江・竜丘・川路の天竜川両岸の桑畑も、度重なる洪水で荒れ、往時のおもかげはなくなっていた。

この耕地を元に復す「飯田市川路・龍江・竜丘地区治水対策事業」が建設省・長野県によって始められ、平成9年天竜川左側(龍江側)の工事が完成した。こうして誕生したのが「今田平」である。

ここに盛った土は、昔入寺の山から採り、工事のために作った運搬道路を運ばれた。

でき上がった農地を活用して、「農業法人今田平」や草蒲園、水辺の楽校など、これからの発展が期待されている。

「日本の三大桑園すがた変え」

「番入寺の土今田平に盛り上げる」

10 紅雲寺と大榎の木



瑞相山紅雲寺。永禄10年(1567)の創立と伝えられる。箕瀬柏心寺の末寺であったが、江戸時代中期に壺仙が買ったと伝えられている。

明治6年排仏毀釈の波を受けて廃寺となった。伊那秩父河東礼所でもある。

寺域には推定樹齢250年の大榎の太木や穴地蔵はじめ40を超える石仏や石碑があり、往時の隆盛さをしのばせる。

「かやの木に歴史をさざむ紅雲寺」

11 羽入田地蔵堂



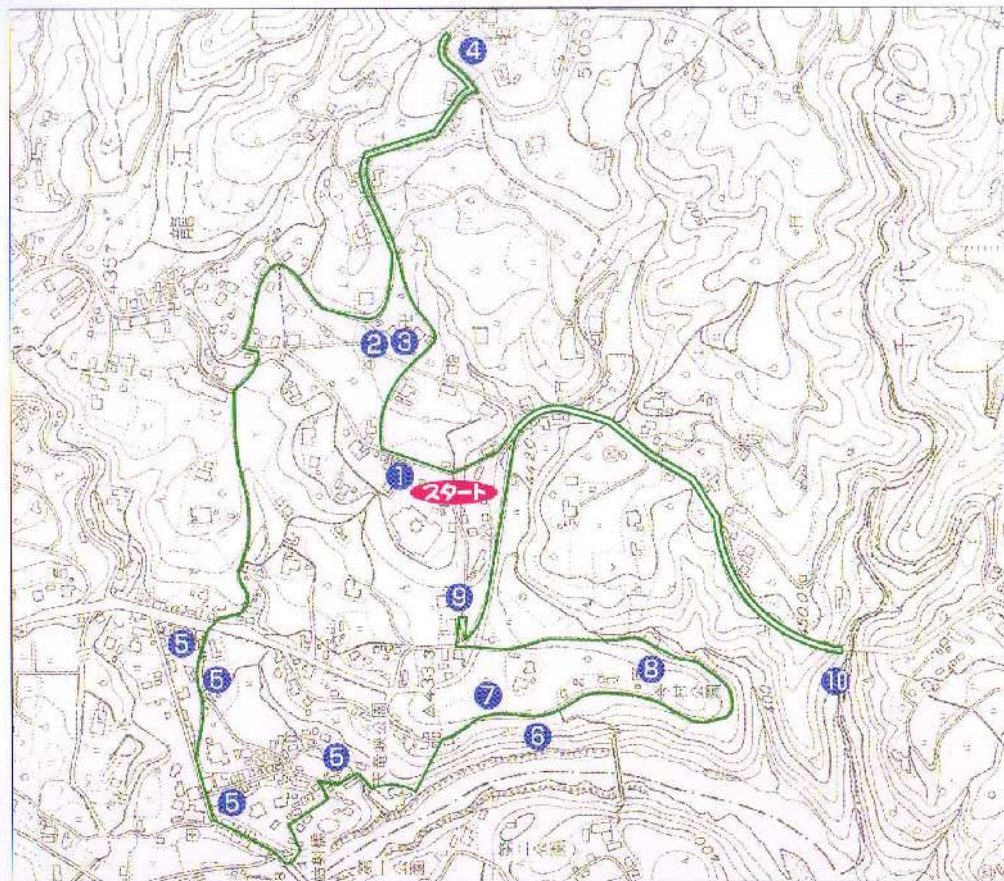
地蔵はお釈迦様がなくなる時、動物まで含めあらゆる生き物を救うように依頼された菩薩で、民間に地蔵信仰として広まった。

信仰内容も安産・子育て、病氣平癒、慰霊と大変多い。

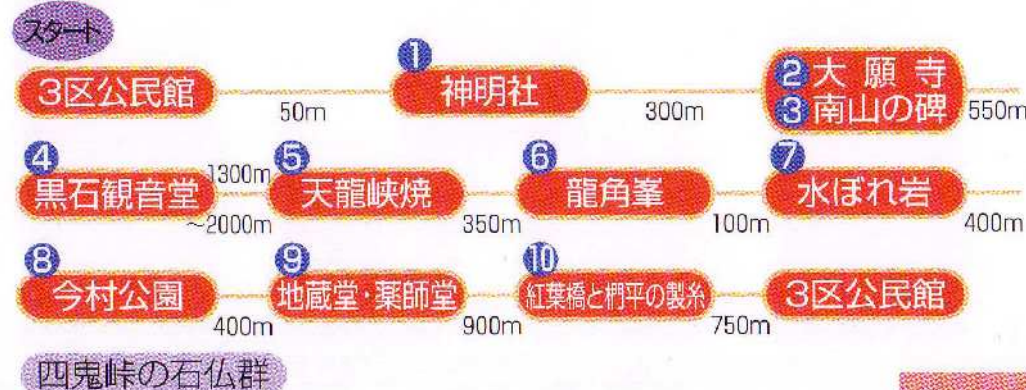
羽入の地蔵は堂内におさめられており、7月24日の地蔵盆には盛大な供養会が、地区の方々によって催されている。

「羽入田地蔵笑みをたたえて見てござる」

名勝天龍峡とりんごの里コース



●総時間数 約90分 ●総距離数 約5.6キロ



1 神明社



祭神は天照皇大神・譽田別命・天児屋根命である。

いつの頃の創建かはっきりした記録はないが、元禄初期の文書があるからそれ以前と考えられる。

かつては7900㎡(2400坪)余の境内を有していたが明治初年縮小させられた。

明治5年政府の学制頒布に基づいて、明治6年に今田下組(3区)と中組(2区)の羽入田、細田、一本木とで境内の舞台を校舎にして学校とした。これが明々小学校で現在の小学校の前身の一つである。

なお、この舞台は本格的な奈落を持つ回り舞台で保存が望まれている。

近年、早乙女による田植と菰穂祭の伝統神事を古式にのっとり復活させ、内外から注目されている。

「神明社回り舞台がひっそりと」

「老杉をめぐる玉垣神明社」

2 大願寺



寛文元年(1661)開山の天台宗のお寺。本尊は薬師如来と子安観世音菩薩である。

毎年1月15日に厄除祈禱をしている。

境内には千葉県佐倉の義民佐倉宗吾の神霊祠、南山の碑、松尾享庵と中原桃仙の頌徳碑が建てられている。

境内西側にあるエドヒガン桜は推定樹齢250年といわれ、飯田市の名木の一つに上げられている。「百年の鐘今日も鳴る大願寺」

3 南山の碑



やせ地の多かった泰早・千代・龍江の当時36ヶ村の農民たちは、苛酷な年貢の取り立てに決起した。安政6年(1859)12月のことである。これが南山騒動とも南山36ヶ村一揆とも言われているでき事である。

この一揆は農民側の勝訴に終わり、一人の犠牲者も出さず全国的にも注目されている。

この騒動から33年後の明治25年、このでき事を後世に伝える目的で、この碑が建てられた。

この碑石の下部にはこの騒動に加わった人たちの名前が刻まれている。「先人の偉大なあしあと南山碑」

4 黒石観音堂

いつ頃建てられたのかははっきりしないが、約400年前堀廻村の開拓の時創建されたと伝えられており、安置してある聖観世音菩薩は行基の作とも言い伝えられている。

伊那秩父31番札所で、堂の下方に「黒石」があるので黒石観音堂と呼ばれている。

正面に大原惣重が描いた今田八景の額が飾っており、ここからの眺めがよいので、今田八景の一つに加

えられている。「八景の絵馬在る黒石観音堂」「夜泣きっ子黒石様に鎮められ」



5 天龍峡焼



明治35年頃、千代の篠田清孝・秋元菊次らが諏訪の篆刻師八幡効處の技術を取り入れて、陶器に書を刻んで焼成した。

これが珍しく大好評となった。天龍峡篆刻陶器の始まりである。

初めは尾林に窯を築いていたが、大正10年に天龍峡に窯を築いて移り、天龍峡焼の名が広く知られるようになった。

「篆刻で天龍峡焼その名挙げ」

「四季の花竜峡焼の花器で迎え」

6 龍角峯



全国的な景勝地である天龍峡には名勝が多い。

龍角峯もその一つで、高さ53mもの巨岩に字を彫った技術のむずかしさもあって、天龍峡十勝の第一に上げられ、対岸の川路側からの眺めは、一見に価する。

日本的な書家日下部鳴鶴の書を彫ったもので、明治16年に完成した。

「むささびの飛び去るかなた龍角峯」

「龍角峯むかしの人の彫りあと」

「竜昇るすがたとどめた龍角峯」

7 水ぼれ岩



激流天竜川は川底の岩を浸食した跡を各所に残しており、ポットホール（風穴）もその一つである。

龍角峯の上、弘法堂の所にある水ぼれ岩も、ポットホールである。

伊那谷はその後、地殻変動で隆起したので、大昔の川底がこんな高い所にある。

水ぼれ岩のある弘法堂に祀られている弘法様のお祭りが、長らく途絶えていたが、平成13年に藤本さんの努力によって復活した。

なお、姑射橋の近くにある龍江の歌人吉澤武平の歌碑はじめ、水ぼれ岩の近くには文芸家で軍人・政治家の中原謹司頌徳碑、画家で俳句もよくした木下寒雲子の句碑、水野良哉のだるま絵碑などがある。

「水ぼれ岩龍角峯よりまだ上に」

8 今村公園



高森町出身で今村銀行創立者の二代目、今村繁三から所有地を無償で貸すという申し出を受け、大正11年有志が花木を植え公園造成をし、氏の好意に報いる意味で今村公園

と名付けられた。

その後隣接地を譲り受け、昭和元年に公営の公園とし、現在に至っている。

5〜6月頃、黄緑色のチューリップに似た花をつけるユリノキ（はんでんぼく）は、この公園のシンボルである。

「今村公園ユリノキ五月の空へ咲く」

9 地藏堂・薬師堂



昔からお堂と呼ばれていたこの堂内には地藏菩薩と薬師如来が祀られている。

この薬師如来は飯田美博の調査では平安時代中期の作で、この地にこのような古い仏像がなぜあるのかと疑問を投げかけられている。

近くに木曾義仲の乳母の供養塔と伝えられている石塔があり、これと関係があるのかも知れない。

源平時代への夢をかき立ててくれるお堂である。

「大平見守る古い薬師像」

「義仲のゆかりが眠る大平」

10 紅葉橋と棚平の製糸



昭和49年、県道天龍・富山・佐久間線と県道満島・飯田線とが統合と

なり、県道飯田・富山・佐久間線が誕生した。

この県道が紅葉川を渡るところに架けられているのが紅葉橋で、かつて村境であった。

現在の橋は平成7年3月に道路改修に伴って架け変えられたものである。架橋地点が高く、はるか眼下に紅葉川の流れを望むことができる。

この橋の龍江側欄干は、明治中頃から昭和10年代まで製糸業で栄え現在も「ヤマク」のまゆ倉が残っており、往時をしのばせる。

「紅葉橋龍江と千代をひとまたぎ」

「夕照の絵になる眺め紅葉橋」

「昭和初期龍江の萌は八万貫」

四鬼峠の石仏群



羽入田と芦の口から安戸へ通ずる峠が四鬼峠（斧峠とも書く）で、ここに中原地区の治部右衛門が元禄5年に勧請した善光寺如来が岩屋の中に安置してある。

この峠と峠に至る道筋には、民間信仰の石仏が50体以上も所狭しと祀られており、壮観である。

道が細く、足場も悪いのでマップのコースには組み入れなかったが、一見に値する。

「四鬼の道信仰こもる石仏群」

「四鬼山はむかしも今も月さやか」

尾林焼とホテルの里コース / 七和公園と文吾岩コース



尾林焼とホテルの里コース ●総時間数 約50分 ●総距離数 約2.3キロ



七和公園と文吾岩コース ●総時間数 約110分 ●総距離数 約6.5キロ



① 源氏ボタル自生地



毎年6月下旬から約一ヶ月間、無数の「源氏ボタル」が飛び交い、大勢の見物客の目を楽しませてくれる。

昭和60年代から大量発生が見られるようになったが、これは石林地区の林さんをはじめ近隣の人たちの、ボタルのエサである「カワニナ」の放流や河川の条件整備に負うところが大きい。

最近では自然愛好の風潮から、遠く名古屋方面から見物に訪れる人もいる。

「幽玄なボタルの乱舞石林」

④ 尾林八幡社(舟久保八幡社)



祭神は菅田別命・大国主命で、創建のいきさつは明確でないが、元禄8年(1695)に社殿を造った棟札が残っているという。

秋の例祭に芋田楽を作って供え、参詣者にも分けたので、田楽祭りと呼ばれている。

神社にある狛犬は江戸時代初期(1609)の作と言われ、刻字施釉陶器として県下で最も古く飯田市文化財に指定されている。

また平成8年から、元旦祭に合わせて綱引大会が氏子をはじめ帰省者達によって、毎年行われている。

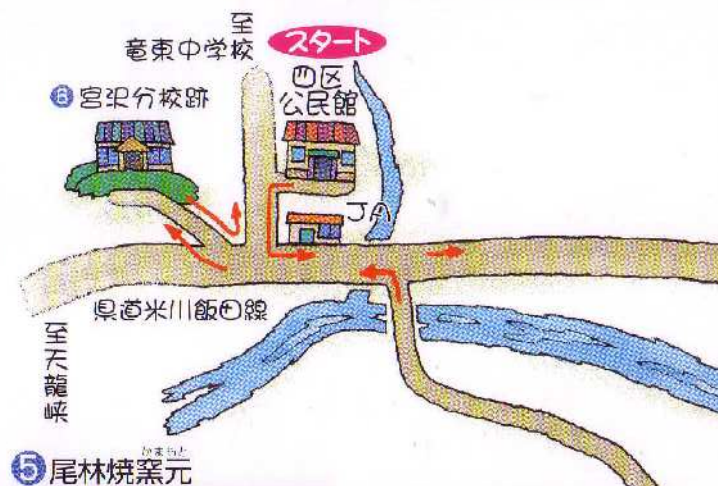
② 梅田小校跡



明治6年(1873)、筑摩県の教則に基づいて1区の定継寺、3区の神明社とならんで4区の7ヶ村連合で尾林の十王堂に設立されたのが梅田小校である。

その後、明治25年(1892)宮沢に新校舎が完成し、梅田小校はその役目を終えた。

現在この跡地には、石柱が建てられ、往時の名をとどめている。



⑤ 尾林焼窯元



下で最も古く、飯田市文化財に指定されている。

尾林焼は現在日本伝統工芸会員の水野さんと息子さんに受けつがれている。

「世に広く尾林焼の煙立ち」
「茶を点てる土のぬくもり尾林焼」

⑥ 宮沢分校跡



明治25年(1892)、学校制度が軌道に乗って、宮沢和世田神社外山に新校舎が建設され、龍江尋常小学

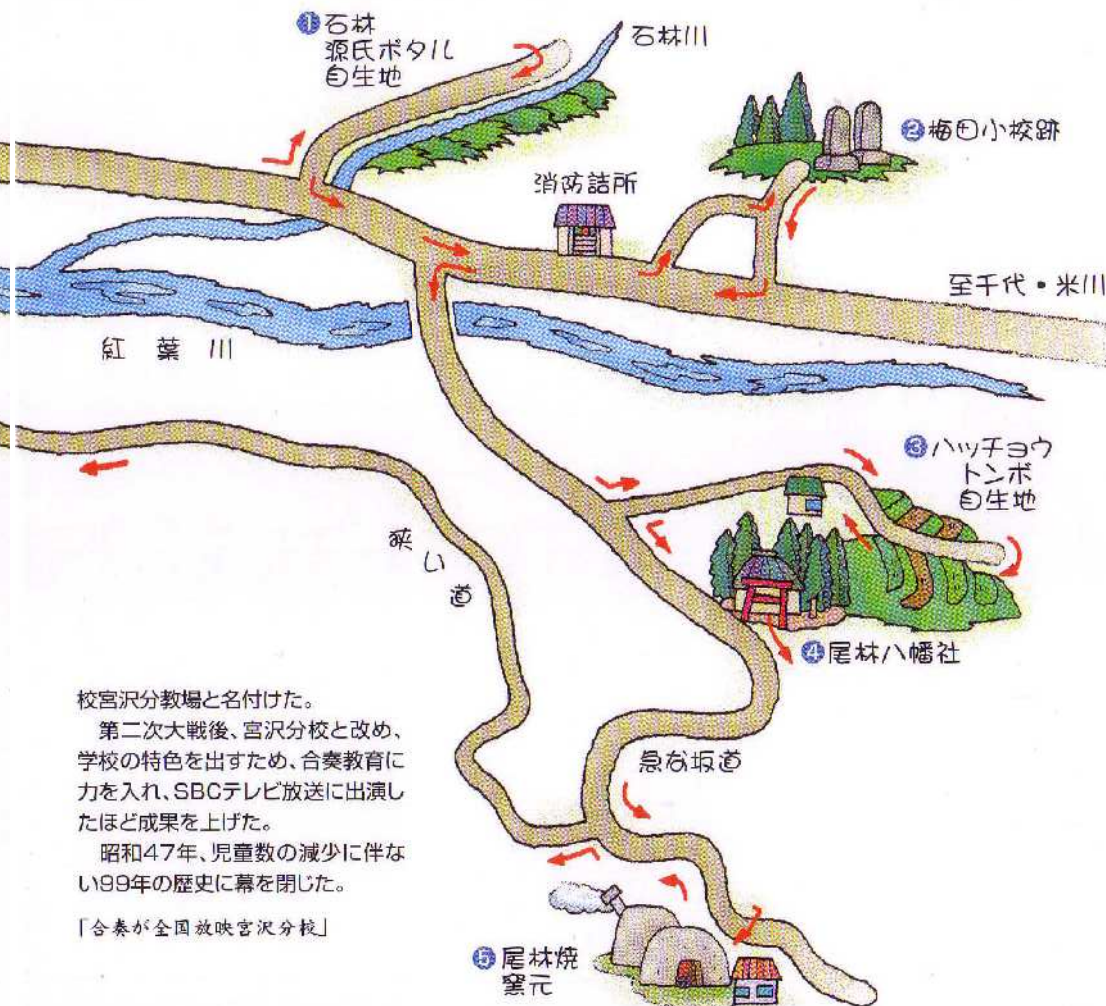
③ ハッチョウトンボ自生地



小温原に生息し、体長18mm位の日本のトンボ類の中では最も小さく「緑の国勢調査」で「指標昆虫類」の一つに選定されている。このトンボが生息しているのはこの地が良好な自然環境であることを示している。オスは羽根のつけねと体が赤くかわいらしい。

昭和60年代、尾林から宮沢一帯の休耕田で大発生して注目された。5月末ごろからおよそ2ヵ月間飛び交う。

現在、尾林の川手さんが休耕田を活用して、このトンボの保護・養殖に取り組まれている。



校宮沢分教場と名付けた。

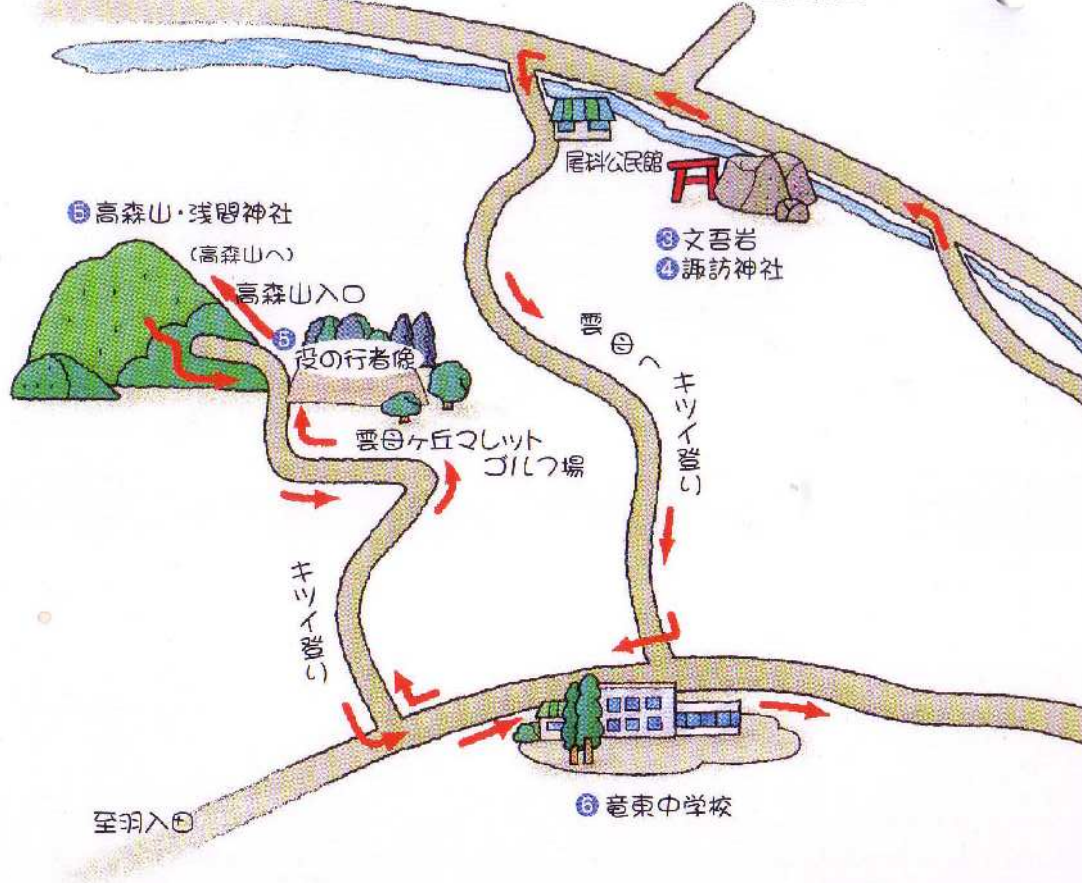
第二次大戦後、宮沢分校と改め、学校の特色を出すため、合奏教育に力を入れ、SBCテレビ放送に出演したほど成果を上げた。

昭和47年、児童数の減少に伴ない99年の歴史に幕を閉じた。

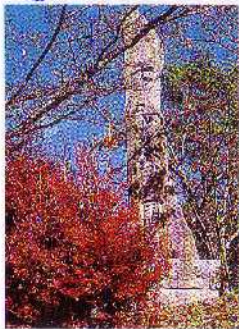
「合奏が全国放映宮沢分校」

至下久堅

至上久堅



① 七和公園



明治7年、七和村が誕生する以前、安戸・尾林・石林・宮澤・雲母・大屋敷・尾科の七つの村があった。

明治8年に七和村と今田村が合併して龍江村が誕生するが、七和村の人々は「七つの村の人々の温かい心を育てる所」として、地区民総出で大正7年に着手し、12年にこの公園を完成させた。

公園にある「七和公園」と刻まれたみことな自然石の柱状石碑は、上久堅大鹿の山から10日がかかりで運び出されたものである。

「公園にひとときわ高い七和の碑」

② イワテヤマナシ



名前が示すように岩手県はじめ東北地方が原産で、ナシ科の原種に近いナシといわれており、龍江・千代・泰阜に分布している。仮にこの木が自生種であれば、イワテヤマナシの南限として貴重であるといわれている。

③ 文吾岩



から飛び下りた時、岩がへこんでいたという文吾の足跡ときんたまの跡がついた大岩で「金玉岩」と呼び伝えられている。

このへこみにたまった水が皮膚病によく効くとも言われている。

近くにある文吾の生れた高橋家の墓地には、文吾のお墓があり「尾科長常高橋豊後守」と彫られている。

尾科の諏訪神社の入口に当るイタチガ沢の川辺にある。龍江の民話「文吾岩丘に上って河鹿聞く」で名高い力持ちの文吾が、山の中腹「伝説の尾科の文吾今も生き」

④ 諏訪神社



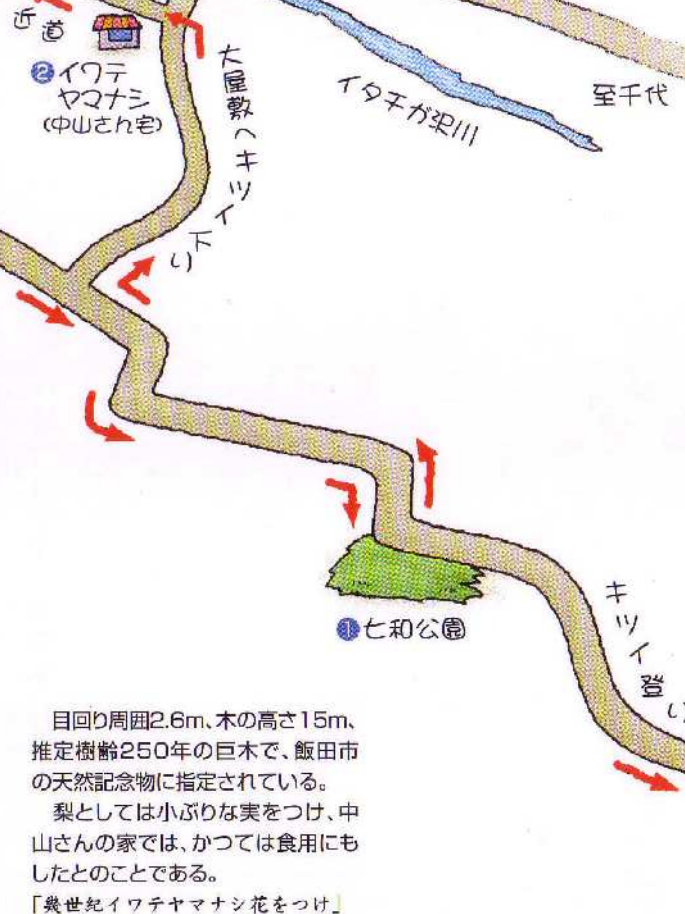
祭神は建御名方命・八坂刀元命で元仁元年(1224)か文明18年(1486)かにこの地に迎えたといわれている。

明治5年から今も寅・申の年に御柱祭が行われている。

境内にはかつて盛んに行われた地芝居の舞台が、当時のまま残っている。

なお、4区にはこの神社と高森山頂の浅間神社、八幡社(尾林)の他に次のようないくつもの神社がある。和世田社(宮沢)八王子社(安戸)白山社(石林)富士浅間社(大屋敷)。

「昔なじみがそろう尾科の御柱」



目回り周囲2.6m、木の高さ15m、推定樹齢250年の巨木で、飯田市の天然記念物に指定されている。

梨としては小ぶりの実をつけ、中山さんの家では、かつては食用にもしたとのことである。

「幾世紀イワテヤマナシ花をつけ」

⑤ 高森山・浅間神社と 役の行者像



龍江のシンボル高森山は標高683.7mで雲母・尾科・上城上にまたがっており、龍江地区で一番高い山である。

山頂には木花開耶姫命を祭神とする浅間社がまつられている。

高森山に登る雲母からの道の途中に、富士山の登山道を開いたと言われている修験者役小角の石像が石室にまつられており、かつて民間信仰が盛んであったことがしのばれる。「高森に立てば伊那谷一望に」「ひらけゆく龍江見守る高森山」

⑥ 竜東中学校



龍江4区・千代・上久堅と下久堅稲葉地区が統合して竜東中学校が誕生した。昭和45年4月の開校であった。

その後、昭和47年には現在の校舎も完成した。

恵まれた自然環境の中で、素直で明るい生徒たちは、花壇づくりに取り組み、内閣総理大臣賞はじめ数多くの賞に輝いてきている。

自然を愛し、小さな命にも心を寄せる、豊かな情操を伝統的に育てている。



【今田平 花菖蒲園より今田人形の館を望む】

このマップは…

このマップは、ふるさと龍江を再発見・再確認し、龍江を愛する心を育んでほしいという思いから、平成7年度に完成した「龍江かるた」をもとに作成しました。コース上のスポット地点は、「龍江かるた」で取り上げられている地区ゆかりの場所を中心に選考し、解説文の最後にはかるたの句を掲載しました。

写真は「龍江を撮る会」の皆さんに撮っていただきました。

マップを作成して、改めて先人たちの築いて来られた龍江のすばらしさ、自然の豊かさ、文化的な価値の高さを確認しました。

このマップを一つの手がかりにして、龍江への理解を一層深め、誇りを持ち、明日の龍江の発展を考えていただければ幸いです。

歩くことは健康増進にもなります。家族で歩けば絆もより深まるでしょう。地区のみなさんで歩けば、親交もさらに深まりましょう。このマップを片手に、龍江を歩いてください。昔のままの龍江、そして新しい龍江——何か発見するものが必ずあると思います。

2002年3月・2005年10月修正
飯田市龍江公民館文化委員会